

日時	令和3年8月17日 午前10時30分から11時40分まで
場所	長久手市役所北庁舎2階第5会議室・災害対策本部及びオンライン併用
出席者	16名中11名出席 会長 成田暢彦 委員 石橋健一 委員 長谷川明子 委員 増田理子 委員 荒川俊史 委員 三宅俊成 委員 Peter Heintl 委員 岩淵準 委員 水岡恵子 委員 青木幸子 委員 森山輝久 市(事務局) くらし文化部長 浦川正 くらし文化部次長 日比野裕行 環境課長 富田俊晴 同課環境係長 山田菜美 同課ごみ減量推進係長 大谷悠 同課環境係主任 佐藤雄亮 同課環境係主事 前澤実希
欠席者	委員 鶴見紘二 委員 廣田賢一 委員 伊藤直樹 委員 森広幸 委員 鬼頭和宏
報告事項	1 長久手市環境審議会設置規則の一部改正について 2 令和2年度事業報告及び令和3年度事業計画について
公開・非公開	公開
傍聴者人数	なし

報告事項要旨

報告 1 長久手市環境審議会設置規則の一部改正について	
事務局	資料 1 に基づき説明
委員	改正日は委員が書面を提出した日か。
事務局	書面提出後である。
報告 2 令和 2 年度事業報告及び令和 3 年度事業計画について	
事務局	資料 2～4 に基づき説明
委員	<p>ごみ袋について気になる点が三つある。</p> <p>一つは、長久手市の燃えるごみ袋が非常に弱い点。生ごみを捨てるときは、何か他のビニール袋に入れてから捨てないと、ごみ袋がすぐ破けてしまう。魚の骨なども牛乳パックなどに入れないと、ゴミ袋がすぐ破れてしまうといった状況なので、新しくする際に改善が望まれる。</p> <p>二つ目は、SS サイズの袋だと、一人暮らしにはゴミ袋が非常に大きい点。子育て世代など、おむつのごみは毎週 2 回は捨てたいところだが、この値上がりはかなりの負担になるかと思うので、せめて S S S の小さい袋などを作ってもらって、前と同じような 10 円ぐらいの値段で何とかならないか。</p> <p>三つ目は、プラスチックの容器の袋について、45 リットルの袋種類だけなので、なかなかいっぱいにならず、捨てる機会がない点。小さい袋を作ったり、回収の頻度を増やせば、よりリサイクルが進むと思う。</p>
事務局	<p>ごみ袋の値段の改定について、10 月以降、市民の方々と話し合いを重ねながら、ご理解をいただくよう説明を尽くしたいと考えている。話し合いでは、ごみ袋自体の強度に関してご意見いただくことを想定している。現在のごみ袋は、鋭いものやとがったものを入れると裂けやすいが、重い物を入れた時にちぎれにくいという特徴がある。袋の素材の性質によって違いが出てくるので、ご意見をうかがいながら、工夫できるところ、改良できるところについて、中身を固めていきたい。また、プラスチック容器包装袋がなかなか満杯にならず、燃えるごみに混ざりやすいという指摘をいただいたが、それについても、小さいサイズの袋を作るとか、回収の頻度を上げるなど、話し合いで固めていくことを想定している。</p>
委員	<p>長久手市のごみ減量大作戦の中で、出前講座をしているとのことだが、実施後に、興味を持った子供たちが活躍する場はあるのだろうか。せっかく、学校で取り組んだのなら、環境部のような部活を設けて、活躍してくれればよいという期待がある。今の子供たちは敏感で、地球を守ろうという意識が高い人が多い。そういった人をこの講座に結びつけて、学校もバックアップをして、子供たちの力を借りるとよいのではないか。</p>
事務局	<p>大変興味深いお話をいただいたと思う。ごみ減量大作戦の小中学校へのアウトリーチ出張講座は、ごみの現状や減量化、資源の分類の仕方について子供たちにお知らせしていくことで、子供たちが家に帰ってご家族の方と話をし、保護者の方に、「こういったごみの捨て方はよくないよ。こういうことを工夫できるね。」というふうに伝えていただく</p>

	ことを、一番の目的としている。その後、子供たちが、どういった活動にしていくかについては、ある程度自主性を持ってやっていただければと考えている。
委員	本日の会議について、会長が議長になって議事を進行するという事ではないのか。
会長	本日の話題の項目は、報告事項のみなので、会長が議事を担当していない。そんな進め方でよろしいか。(委員同意)
委員	河川と水質分析調査の中で、香流川で少しBODが高かったデータがあったが、原因がわかっているのか。
事務局	原因は掴めていない。
委員	他にもpHが若干高いところがあったが、これについてはどうか。
事務局	pHについては、以前、藻の大量発生による光合成の効果によって、水質がアルカリに傾いたことがあった。
委員	ソーラーパネルの耐久性や処理について知りたい。次の世代に負担になるのが心配。
事務局	太陽光パネルの耐久性は、実際にはそれに付属するインバーターなどの設備によっては10年ぐらいで壊れてしまうものもあるが、大体20年から30年と言われている。その後新しい機械に更新される場合には、業者が足場を組んで外すことになり、産業廃棄物として処理される。現在のところ、太陽光パネルのリサイクルについてはそれほど進んではいないと理解している。
委員	項目1の「脱炭素のくらしと地域づくり」の点について質問する。本日共有された内容を拝見すると、全体アクションについて、目標や指標を定めてフォローアップをしていくところや、どのように経過するかを見やすくするところに重点が置かれているように感じた。例えば、説明のあった2013年から2030年までに、40%の二酸化炭素の削減を目指すことについて、どのようにそれを実行していくのかというのが、難しいように思った。どんな行動をして、どのようにこの目標に近づけていくのかという具体的な案を、今一度ご説明いただきたい。
事務局	本市において排出される二酸化炭素は、家庭系の割合が高くなっている。それを減らしていくには、基本的には省エネ行動と、同時に、再エネの利用を進めることが挙げられる。今後の30年でのいろいろな技術革新によって新たな項目が出てくるかもしれないが、現在のところ、一番効果的な手段としては、省エネ行動の促進に尽きっている。加えて、太陽光パネルのような、再生可能エネルギーの導入を推進することである。これは長久手市役所という一つの団体だけではなくて、長久手市民や事業者全体で進めていかざるをえない。そうしていかないと、二酸化炭素の40%や50%の削減に向かっていくことは不可能であると考えている。
委員	今の回答によると、市民に関する省エネ活動をより促進していくということだったが、二酸化炭素を40%や50%削減していくには、市民の力、各家庭での省エネ活動が要となるというメッセージを、市民にどのように伝えるか検討してほしい。 もう一つ、市民がどのように行動すると、省エネ活動につながるのかということ、市民に向けて、わかりやすくメッセージを届けるような活動ができると、より現実的に数値に表れてくると思うので、ぜひ検討してほしい。

委員	<p>ごみ袋の増額について、市民との話し合いでいろいろと意見が出てくるかと思うが、紙おむつのごみは結構な量になる。これから高齢者が増えると、子育て世代のみならず、高齢者の紙おむつも増えるが、最近では、おむつのリサイクルも話題なので、長久手市でどう取り組んでいくのか検討してほしい。また、高齢者の年金生活者や、子育て世代に負担がかかるので、福祉部や子供部とかと協力して、例えば補助を行う等、配慮していく必要があると思う。</p>
委員	<p>ごみ袋の増額について2点質問する。1点目は、先ほどのご意見のごみ袋が破れやすいことについて、同じ袋の質で増額を想定されているのか。2点目は、ごみ袋をの値段が3倍ぐらいになった時に、私の感覚からすると、ごみを袋にごみをすきまなく押し込んでしまうことになって、減量につながるか心配である。価格を3倍にすることによって、本当に減量できるかどうかについて、すでに調査を行われていて、根拠が明らかになっているのであれば教えてほしい。</p>
事務局	<p>1点目のごみ袋の材質について、値上げが確実に了承された場合、今の材質のままとなると、相当不満が出るだろうと承知しており、材質を変えていきたいと考えている。今の材質としては、高密度ポリエチレンを使っており、例えば低密度ポリエチレンは裂けにくいですが、ちぎれやすいというように、材質それぞれに善し悪しがあるので、材質や厚みを検証したいと思っている。値上げ後、今と同様の質の袋を、色だけ変えて皆様に提供するという考えは今のところない。</p> <p>2点目、値段の価格設定について、今の値段で10円から15円程度のものを50円にした時、何%ごみの削減ができるについて、全国調査の結果がある。そのデータは、広報ながくて8月号の折り込みチラシで長久手市民へ配っている。長久手市以外で、すでに有料化を実施し、ごみ袋の値段が500円程度のところの実績を調べたところ、大体15%から20%以上の削減ができています。削減は短期的ではなくて、3年ないし、継続して維持できているデータがでています。</p>

以上